

第1学年 生活科学学習指導案

平成26年10月23日（木）第5時限 1年2組教室（男子12名、女子8名）

田原市立中山小学校 牧野 加奈子

1 単元名 きれいなはなをさかせてね

2 単元の目標

- ・植物の成長に興味・関心をもち、大切に育てようとしている。（関心・意欲・態度）
- ・栽培や観察をして気付いたり思ったりしたことを、言葉や絵、動作化で表現することができる。（思考・表現）
- ・継続的に植物の世話をする中で、植物の特徴や成長の様子に気付いたり、植物を育てられるようになった自分自身の成長に気付いたりすることができる。（気付き）

3 指導にあたって

(1) 子どもの実態

1学期当初、本学級の子どもたちは、学校生活や授業において、思っていることやみんなに伝えたいことがあっても、それをどう表現すればよいのか分からず、もどかしそうに黙ってしまうことが頻繁にあった。そこで、気付きや思いをいろいろな表現方法で伝える経験をする中で、伝えたいことを自分なりに表現することができるようになってほしいと考えた。また、一人一鉢、自分で選んだ植物を継続的に栽培や観察をすることで、愛着をもって大切に育てられるようになってほしいと願い、本単元を設定した。

本単元のこれまでの学習過程において、子どもたちは、楽しそうに植物の世話や健康観察をしながら、自分が育てている植物に毎日かわることができた。そして、毎日「お知らせ会」の時間を設け、自分の植物の様子や心配なことを全体で共有することで、友達の植物にも関心をもつようになった。また、自分の気付きや思いを絵や文章で観察カードに表現したり、植物の成長の様子を動作化したりする活動を繰り返してきたことで、次第に自信をもってのびのびと表現活動ができるようになってきた。

2学期も、子どもたちは、愛着をもって植物の世話を続けている。ヒマワリは、しっかりとした種が実らなかったが、その他4種の花を育ててきた子に、種のと리카たを教えてもらいながら、学年用花壇の植物の種の収穫をみんなで楽しんでいる。また、今までかきためてきた観察カード振り返りながら、植物の成長の様子を思い出し、お話を書くことができた。今後、完成した紙芝居をみんなで発表し合い、これまでの活動を全体で振り返り、植物の成長だけでなく、植物を育てられるようになった自分自身の成長にも気付いてほしいと願う。

(2) 単元について

本単元では、ヒマワリ、マリーゴールド、フウセンカズラ、ハウセンカ、アサガオの5種類の植物から一人1種類ずつ選んで栽培する。これら5種類の植物は、子どもたちでも栽培が容易であり、きれいな花が咲く。また、成長の様子や特徴を捉えやすい。さらに、花や種を使ったいろいろな遊びが展開できるため、子どもたちが興味・関心をもって栽培活動が続けていくことができると考えた。また、5種類の植物から1つを選んで育てることで、自分の植物だという思いを高めたり、友達の植物と比べながら栽培や観察をすることで、様々な特徴に気付いたりすることができるだろう。

この単元では、はじめに『エディのやさいばたけ』という絵本の読み聞かせを行う。このお話では、主人公のエディが種屋さんに行き、様々な種類の種の中から気に入ったものを選んで大切に育てていく。お話を聞いた子どもたちは、「自分たちも種屋さんに行きたい」「何かを育ててみたい」という思いをもつだろう。そこで、学校の花壇の花の世話をしている校務主任に種屋さんを開いてもらい、特別に種を分けてもらうことで、「大切に育てたい」という思いを高めるようにする。そして、種まきの準備やまく種の数、まき方や育て方などを、子どもたち自身で考えたり調べたり相談したりしながら、栽培活動を行うことで、開花や結実したときに満足感や達成感を味わえるようにしていく。

植物の成長に伴って、絵や言葉で観察カードをかく活動を行う。この観察カードは、気付きや思いを書くだけでなく、植物と向かい合い、植物との会話を書けるように吹き出しもつけてある。単元の終わりには、観察カードを紙芝居として発表し合うことで、植物の成長の様子を振り返ったり、これまで世話をしてきた自分自身の成長にも気付いたりできると考える。また、観察カードへの記述だけでなく、自らの植物になりきって動作化する活動も行う。動作化することで、植物の立場に立って植物の気持ちを考えたり、植物の世話を頑張っている自分自身に気付いたりすることができるだろう。このように、観察カードや紙芝居、動作化などの様々な表現方法を体験することで、自分の気付きや思いをみんなに伝えることができるようになってほしい。

であう
ひたる
ふりかえる

【学習活動の流れ】

ぼくたちも、はなをそだててみたいな ①

- ・エディすごいね。 ・お花つてきれいだな。 ・何かを育てるのって楽しそう。
- ・エディは種屋さんに行っていたね。 ・ぼくも種がほしいな。

<カネマツたねやへようこそ>

- ・フウセンカズラを育ててみたい。 ・種はいくつにしよう。
- ・準備ができれば、種を分けてもらえるんだって。 ・どんな準備をすればいいかな。

じゅんぴをして、たねをもらいにいこう ②

- ・種をまくには鉢と土がいるね。 ・土はどうしよう。 ・兼松先生が、いい土を持ってるかもしれん。
- ・学校の土を分けてもらえるって。 ・ふわふわの土を入れて準備オッケー。

やったあ、たねをもらったよ！ たねまきをするぞ！ ③

- ・なんか種って小さいね。 ・よく見ると、種に模様があるよ。
- ・赤ちゃん指で穴をあけて種を入れるといいみたいだよ。 ・いつ芽がでるかな、楽しみ！

きれいなはなをさかせてね

あ！ めがでてきたよ！ ④

- ・わあ！ 顔がでてきた。 ・誕生日おめでとう。 名前は〇〇ちゃんにするね。
- ・葉っぱが2つあるよ。 ・種を3個まいたけど、1つしか芽が出てこないよ。

おはなにへんしん！ こんなふうにてきたよ ⑤

- ・外は明るいなあ。 ・お日さまがぼかぼかあたたかい。 ・ぐんって背伸びをしたみたい。
- ・土の中ですやすや寝ているけど、そろそろ顔出すよ。 ・土の中で迷子になっている。

ほかのともだちのへんしんもみてみたいな ⑥

はっぱがいっぱいできてきたよ ⑦

- ・葉っぱがネクタイの形みたい。 ・葉っぱは、ちくちくしているよ。
- ・ぼくの〇〇ちゃんは葉っぱが丸いのに、〇〇くんは葉っぱがとんがっている。
- ・葉っぱが2枚枯れちゃった。 ・葉っぱに小さい穴が空いている。 どうしてだろう。

おはなにへんしん！ こうやってはっぱがふえてきたよ ⑧

- ・ぐんぐん空に向かって伸びていくよ。 ジャンプっ！
- ・新しい葉っぱは、もさもさ増えていくよ。 ・手をいっぱい広げるぞ。

ほかのともだちのへんしんもみてみたいな ⑨

ぐんぐんおおきくなってきたね ⑩

- ・背が伸びてきて倒れちゃいそう。 どうしよう。 ・葉っぱがまた3枚ふえたよ。
- ・葉っぱがざらざらしてる。 でも〇〇ちゃんのはつるつるだね。

おはなにへんしん！ こんなふうにおおきくなってきたよ ⑪

- ・風がふいて、ゆらゆら。 おどっているみたい。
- ・前よりももっと背が伸びたから、おもいきりジャンプ！

ほかのともだちのへんしんもみてみたいな ⑫



やったあ、はながさいた！ ⑬

- ・わあ、きれい。 ・〇〇くんのお花もかわいいね。
- ・ぼくのは、花びらがたくさんある。 数えてみよう。

おはなにへんしん！ はながこんなふうにさいたよ ⑭

- ・つぼみから、ゆっくりゆっくり開いていくよ。
- ・花びらがひらひらしているから、腕でひらひらさせるよ。

ほかのともだちのへんしんもみてみたいな ⑮

たねができたよ！ ⑯⑰

- ・ぼくには、種がいっぱいつまっているよ。 ・風船の中に種が入っている。
- ・おかえりなさい、種さん。 ・種、どうしようかな。 ・違う花の友達と交換したいな。
- ・今度は、違うお花も育ててみたいな。 ・家族にプレゼントしたいな。

かんさつかあどをみていくと、おはなしができそうだね ⑳㉑

- ・お話を書いてみよう。 ・初めはこんなにちっちゃかったんだよね。 ・なんか懐かしい。
- ・ぼくのお花の物語が完成したよ。 ・観察カードをめくっていくと紙芝居みたいだね。

みんなのかみしばいもみてみたいな ㉒㉓

- ・みんなのお話が聞けてよかったな。 ・友達に自分のお花のことを知ってもらえてうれしいな。
- ・ぼくのお花といろいろとちがってびっくりしたよ。

きれいな花を咲かせてくれてありがとう。 ・種をいっぱいつくてくれてありがとう。

おはなにてがみをかきたいな ㉔㉕

- ・きれいな花を咲かせてくれてありがとう。 ・種になって帰ってきてくれてありがとうね。
- ・お花からの返事も書きたいな。 ・〇〇くんのおかげで、きれいな花を咲かせられたよ。

【〇手だて◆評価】

- 絵本の読み聞かせ後、これからの栽培活動への意欲付けをするために、校務主任が種屋さんを開き、5種類の花の種を紹介する。
- 芽が出ない場合も想定し、予備用として、学年用花壇で全種類の花の種をまいておく。
- いろいろな視点で観察できるように、見るだけでなく、においや手触りも確かめられるように声掛けをする。
- 観察カードは、植物との会話や気付き、絵をかけるようにしておく。それを後に紙芝居として使う。
- ◆五感を使って観察し、気付きを絵や言葉で表現している。
- 友達との違いに気付かせるために、帰りの会で、自分の植物の様子を報告する場を設ける。
- 植物の状態に気付くことができるように、毎日自分の植物の健康観察(げんき、しんばい、ぴんち)を行い、教室に掲示してある表にシールを貼らせる。
- 「しんばい」や「ぴんち」のシールが貼られた時には、「なかトーク」の時間などを使って話し合うようにする。
- ◆植物の成長の様子に関心をもち、主体的に世話をしようとしている。
- それぞれの植物の成長の様子や特徴に気付いたり、植物の気持ちを考えたりできるように、成長の様子を動作化させる。
- 植物になりきることができるように、自分が育てている植物の花のかぶり物をかぶらせる。
- グループで動作化をする際に、友達との違いに気付きやすくするために、違う種類の植物を育てている子が各グループに入るように配慮する。
- より植物になりきれるように、鉢に見立てた大きな箱に入れて動作化させる。
- 植物の様子や気持ちを、意欲的に表現できるように、植物に変身した子におもちゃのマイクを向けてインタビューする。
- 自分や友達の花の様子をすぐに確かめることができるように、授業時に鉢を教室に入れておく。
- ◆植物のことを考えて、これからも大切にしようとしている。
- それぞれの花の開花の際には、学年用花壇の花を使用し、みんなで遊びを共有できるようにする。
- 紙芝居や手紙をなかなか書き出せない子には、対話をしながら、一緒に観察カードを振り返り、植物の成長の様子や植物への思いを書けるようにする。
- ◆継続的に世話をすることができた自分自身の成長に気付いている。
- 紙芝居としても活用した観察カードや手紙をとり、1冊の本にしてまとめとする。

本時



5 本時の指導（本時 24 / 25）

(1) 本時のねらい

- 植物とのかかわりを振り返り、植物への思いを手紙に書こうとしている。 (関心・意欲・態度)
- 植物が生命をもっていることや、植物を育てられるようになった自分自身の成長に気付いている。 (気付き)
- 言葉や絵で、自分なりに植物への思いを手紙にかいている。 (思考・表現)

(2) 準備 **【教師】**・センテンスカード・植物の絵・ワークシート **【児童】**・紙芝居（観察カード）

(3) 学習過程

学習活動	○教師の支援・留意点 ◆評価
<p>○植物の成長の様子や世話をしてきた中での出来事を思い出し、これまでの活動をみんなで振り返る。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日葉っぱがふえていって、黄色くなってこまったなあ。 ・葉っぱに穴があいていて、みんなではなしあったよね。 ・結局、穴をあけた犯人は誰だったのかねえ。 ・でも無事にみんな花が咲いたし、よかったね。 ・背がのびてきて倒れそうになったから棒をたてたね。 ・この時ぐらいに台風がきたっけ？教室とかハウスに避難させてあげたよね。 ・一番はじめに咲いたのは、マリーゴールドだったね。 ・種にまた会えてうれしかったなあ。 ・種になってかえてきてくれてありがとう。 </div> <div style="text-align: right; margin-right: 50px;">  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;"> <p>おはなにてがみをかこう</p> </div> <p>○自分が育ててきた植物に手紙を書く。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ほらちゃんへ きれいなおはなをいっぱいさかせてくれてありがとう。とってもうれしかったよ。 ・しろくんへ なつのあついとき、たいへんだったよね。かれなくてよかったよ。げんきでいてくれてありがとう。 ・ふうせんくんへ ふうせんをいっぱいつくってくれてありがとうね。たねになってまたあえたね。これからもずっといっしょだよ。 ・ひこくんへ はっぱがかれそうになったとき、しんばいだったよ。でも、きれいなはながさいてよかったよ。 </div> <p>○自分の植物ところへ行って、手紙を読んであげる。</p> <div style="text-align: right; margin-right: 50px;">  </div>	<p>○植物の生命の循環が視覚的にわかるように、子どもが描いた5種類の植物の絵を黒板に掲示し、それを見ながら、これまでの活動や出来事を振り返っていく。</p> <p>○子どもたちから、植物への思いがあまり挙がらなかった場合には、紙芝居の話に思いが込められている子に、紙芝居を発表させるようにする。</p> <p>◆植物の成長やこれまでの活動を振り返ろうとしている。 (発言)</p> <p>○手紙を書く時の参考になるように、自分の植物に言ってあげたいことを数人に発表させる。</p> <p>○植物への思いをより表現しやすいように、手紙は、言葉だけでなく絵を描いてもよいということを伝える。</p> <p>○なかなか書き出せない子とは、対話を通して紙芝居を見返しながら、これまでの植物とのかかわりなどについて振り返るようにする。</p> <p>◆植物とのかかわりを思い出しながら、植物への思いを手紙にかこうとしている。 (活動の様子)</p> <p>○自分の植物を近くに感じながら手紙を書くことができるように、また、すぐに手紙を読んであげられるように、鉢を教室に入れておく。</p> <p>○ヒマワリを育ててきた3人は、枯れてしまい自分の植物がないため、花が咲いていた時の写真を用意しておく。</p> <p>◆植物にも大切な生命があるということに気付いている。 (ワークシート)</p> <p>◆植物を育てられるようになった自分自身の成長に気付いている。 (ワークシート)</p>